

経済産業省・IPA が運営する「マナビ DX」に、ケンブリッジのビジネスアーキテクト育成講座掲載のお知らせ

ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ株式会社 2025 年 12 月 2 日 10 時 10 分

ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：榊巻 亮、以下 ケンブリッジ）は、企業向け研修サービス「プロジェクトリーダーおよびプロジェクトチーム養成学校」の講座「Scope コース（システム開発上流）」が、2025 年 10 月 29 日付で経済産業省および独立行政法人情報処理推進機構（IPA）が運営する「マナビ DX」において、ビジネスアーキテクト育成講座として掲載されたことをお知らせします。



授業の様子。現役コンサルタントによる座学と大量の演習で即戦力人材の育成を狙う

■ プロジェクトリーダーおよびプロジェクトチーム養成学校とは

DX や変革プロジェクトを成功させることに強みを持つコンサルティングファーム、ケンブリッジが運営する企業向け研修サービスです。

ケンブリッジでは、20 年以上にわたるプロジェクト支援の経験から、ビジネスアーキテクト（変革推進人材）には、デジタルスキルだけではなく、課題設定力や合意形成力といったソフトスキルが不可欠だと考えています。

（参考）ケンブリッジでのスキル定義

- 変革人材には「変革の4層スキル」が必要と定義

・4層をそれぞれ鍛える設計に

D：デジタル知識		X：変革の4層スキル	
カテゴリ	必要な項目	カテゴリ	必要な項目
データ活用	生成AI、データ分析、数値統計など	ハードスキル	PJマネジメント 状況の可視化、課題解決 チーム作り、価値への集中
テクノロジー	ソフトウェア設計 手法、サービス活 用、など		変革方法論 構想策定、要求定義 システム開発、変化への対応
セキュリティ	セキュア設計・開 発、プライバシー 保護、など	ソフトスキル	ビジネス基礎力 循環型思考力、ファシリテーション力 コミュニケーション力、課題解決力 タスク設計力、など
デザイン	顧客・ユーザー理 解、価値発見・定 義、など		心構え 試行と改善、変更前提、越境と協力 価値志向、主体性、など

当校では、これらのスキルを体系的に習得できる講座を提供しており、座学中心の研修とは異なる、徹底した実践形式のカリキュラムが特徴です。

導入企業は、製造、小売、金融、情報通信など多岐にわたり、変革の担い手となる社員の育成目的で活用されています。

導入事例

- 三菱 UFJ インフォメーションテクノロジー株式会社（システム部門が「超上流工程」からプロジェクトを主導できるよう、実践型研修でノウハウを組織に定着）
https://www.ctp.co.jp/case_study/case648/
- 株式会社ファミリーマート（社内の実務課題を題材に、DX 人材育成と業務改革を同時に実現）
https://www.ctp.co.jp/case_study/case658/

■ マナビ DX とは

「マナビ DX」は、経済産業省と独立行政法人情報処理推進機構（IPA）が運営するデジタル人材育成プラットフォームです。デジタルスキル標準（DSS）などのスキル標準への対応を経産省・IPA が審査し、合格した講座のみが掲載されています。

今回該当した「レベル 4」は「一つまたは複数の専門を獲得したプロフェッショナルとして、専門スキルを駆使し、業務上の課題を発見と解決をリードするレベル。プロフェッショナルとして求められる、経験の知識化とその応用（後進育成）に貢献する」と定義されています。

マナビDXの講座レベル

レベル4	DX推進スキル標準・ITSS・ITSS+ 一つまたは複数の専門を獲得したプロフェッショナルとして、専門スキルを駆使し、業務上の課題を発見と解決をリードするレベル。プロフェッショナルとして求められる、経験の知識化とその応用（後進育成）に貢献する。
レベル3	DX推進スキル標準・ITSS・ITSS+ 要求された作業を全て独力で遂行するレベル。専門を持つプロフェッショナルを目指し、必要となる応用的知識・技能を有する。
レベル2	DX推進スキル標準・ITSS・ITSS+ 要求された作業について、上位者の指導の下、その一部を独力で遂行するレベル。プロフェッショナルに向けて必要となる基本的知識・技能を有する。
レベル1	DXリテラシー標準 要求された作業について、上位者の指導を受けて遂行するレベル。プロフェッショナルに向けて必要となる基本知識・技能を有する。

出典：<https://manabi-dx.ipa.go.jp/how>

■ マナビ DX に掲載されている当社講座について

ビジネスアーキテクトに必要なソフトスキルを習得する「[Foundation コース（プロジェクトワークにおける基本動作）](#)」とハードスキルを学ぶ「[Planning コース（変革構想策定）](#)」、「[Scope コース（システム要求定義）](#)」があります。

<Foundation コース（プロジェクトワークにおける基本動作）>

プロジェクトや業務推進に必要なソフトスキルを学びます。ゴール設定、思考力、周囲を巻き込む力など、変革人材の土台となる能力を養います。

項目	詳細
対象者	▪ 入社 5 年目の現場担当者～管理職クラスの全ビジネスパーソン
習得できるスキル （デジタルスキル標準に対応）	【戦略・マネジメント・システム】 プロジェクトマネジメント
マナビ DX のレベル	ビジネスアーキテクト（レベル 2）
開催形式	▪ 対面のみ（弊社赤坂オフィス）

	▪ 個社専用開催プラン、合同開催プランを選択可能
期間	1 回 3 時間の授業を全 8 回（約 4 か月間）
価格	58 万円/人（税抜き）

<Planning コース（変革構想策定）>

プロジェクトの「超上流（構想策定）」の進め方を、実プロジェクトを題材に学びます。

関係者を巻き込みながら、ゴール設定、課題調査、施策立案、実行計画の作成を行い、変革プロジェクトの立ち上げをリードできる人材を育成します。

項目	詳細
対象者	▪ 事業会社で変革のリードが求められる方 ▪ SE など、大規模 IT プロジェクトに携わる方
習得できるスキル （デジタルスキル標準に対応）	【戦略・マネジメント・システム】 変革マネジメント、システムズエンジニアリング、プロジェクトマネジメント 【ビジネスモデル・プロセス】 ビジネスアナリシス
マナビ DX のレベル	ビジネスアーキテクト（レベル 4）
開催形式	▪ 対面のみ（弊社赤坂オフィス） ▪ 個社専用開催プラン、合同開催プランを選択可能
期間	1 回 3 時間の授業を全 8 回（約 4 か月間）
価格	2026 年 5 月期開校コースまで：58 万円/人（税抜き） 2026 年 8 月期開校コース以降：70 万円/人（税抜き）

<Scope コース（システム要求定義）>

DX の要諦でありながら、失敗しやすい「要求定義」に特化した講座です。

業務・IT 部門が協働してシステム要求を整理し、RFP（提案依頼書）にまとめるまでの一連の流れを習得。関係者とどんなシステムを作るのか抜け漏れなく検討し、合意できる人材を育てます。

項目	詳細
対象者	▪ DX など、システムを伴う変革をリードする方（業務部門・システム部門問わず） ▪ これから基幹システム刷新のような大規模プロジェクトに参画する予定がある方
習得できるスキル （デジタルスキル標準に対応）	【戦略・マネジメント・システム】 変革マネジメント、システムズエンジニアリング、プロジェクトマネジメント 【ビジネスモデル・プロセス】 ビジネスアナリシス

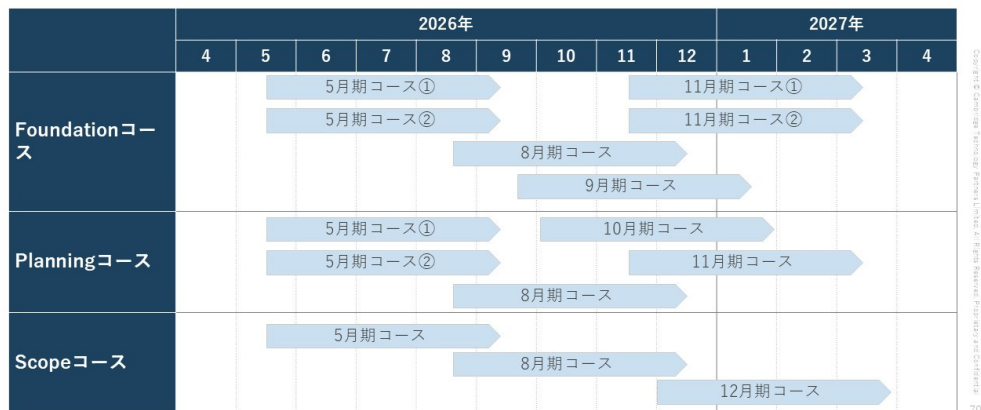
マナビ DX のレベル	ビジネスアーキテクト（レベル 4）
開催形式	- 対面のみ（弊社赤坂オフィス） - 個社専用開催プラン、合同開催プランを選択可能
期間	1 回 3 時間の授業を全 8 回（約 4 か月間）
価格	58 万円/人（税抜き）

2026 年度は以下のスケジュールで開校します。共同開催プランは、研修開始前月 15 日が申し込み期限ですが、定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

全体スケジュール



● 2026年度は、以下のスケジュールで開催いたします。



■ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ 代表取締役 榊巻亮のコメント

長年、企業の変革プロジェクトを支援する中で、変革を推進する役割であるビジネスアーキテクトの重要性を痛感してきました。ビジネスアーキテクトは、データサイエンティストや、サイバーセキュリティと並び、企業変革を支える専門性の高い役割ですが、これまではその重要性が十分に認識されず、“なんとなく器用な人”に任されていました。また、「育てたいが、何を身につけさせればよいのか分からない」という声も数多くお聞きしてきました。

こうした課題に向き合うため、私たちはプロジェクト現場で培った知見を基に、実践を通じてスキルが定着する研修サービスとして本校を開校しました。

今後も、企業・行政の皆さまとともに、日本の変革人材育成に貢献してまいります。

■ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ株式会社について

<https://www.ctp.co.jp/>

ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズは「変革プロジェクトを成功させる」のが得意な、日米でグローバルに活動するコンサルティングファームです。自社のやり方や都合を押し付けるのではなく、お客さま自身の変革マインドを引き出し、実行可能で納得感のあるゴールをお客さまと共に決め、部門横断型の難解な課題や抵抗勢力など変革を阻む壁を超えながら、変革プロジェクトを成功へと導きます。

■本お知らせに関するお問い合わせ

プロジェクトリーダーおよびプロジェクトチーム養成学校チーム（担当：田窪）

お問い合わせ先：<https://pages.ctp.co.jp/contact.html>